

JAERA

News Letter

Dec/25/2007

No.15

3月、東京で全国大会を開催

JAERA認定インストラクター

パネル討論会や国際展示会見学も

日本ELVリサイクル機構(酒井清行代表理事)は、自動車再資源化協力機構(以下自再協)の支援の元、新たに発足させた「JAERA認定インストラクター」の初の全国大会を平成20年3月13日に東京都江東区有明の国際展示場「東京ビッグサイト」で開催する。12月14日開催の平成19年度第3回理事会で決定した。

▽認定インストラクターは51名

ELV機構は、自再協の支援を受けて、自動車解体業の重要な役割となっている「適正なフロン類の回収」や「的確なエアバッグの車上作動」の基本講習を受けた「認定インストラクター」が、学んだ技術をさらに全国の会員団体に伝達する「JAERA認定インストラクター」制度を今夏スタートさせた。

「認定インストラクター」は全国の会員団体から推薦され、自再協専任講師による正規講習を受けた女性1名も含む51名で、ELV機構・自再協両団体代表者名による認定インストラクターの「認定証」を授与されている。

▽すでに800会員に適性処理技術伝達

上記「認定インストラクター」は、9月1日から始まった全国各地での地域別講習会で立派に講師役を果たし今年内は12月8日の茨城県、富山県会場を最期に38箇所、総勢800名の会員に適正なフロン類の回収、間違いのないエアバッグ車上作動の技術を伝達した。残る10カ所については年明け早々から開始、2月一杯で終了する予定。

ELV機構としては、これら「認定インストラクター」に対して、技術的な伝達者としての役割以外に、自動車解体業界の次世代を担う指導者としての役割も期待しており、今年度の活動の締めくくり、また来期への活躍の期待を込め「全国大会」を企画、承認した。 ▶

▽北口副代表理事ら7人で実行委員会

機構にとっては、初の「インストラクター全国大会」の開催とあって、機構の理事で自らもインストラクターの資格をもつ沖縄県自動車リサイクル協同組合の垣花善則さん、同じく副代表理事の榎本拡さん副実行委員長とする7人による実行委員会を組織、3月の開催に向けて具体案の検討を始めた。

現在、想定されているのは、①酒井代表理事からインストラクター代表への認定証の授与②「自動車解体業の資格制度の実現に向けて」「自動車リサイクル法下における適正処理の標準化」などをテーマとしたパネルディスカッションの開催③インストラクター同士の交流を考えた懇親会の開催、などで、パネルディスカッションには、経済産業省、環境省をはじめとした関係省庁等、関連業界団体等にもパネラーとして参加を呼びかける予定。

また、会場となる「東京ビッグサイト」では、開催当日から3日間、7回目を迎える「国際オートアフターマーケットEXPO2008」も

開催されており、世 全国大会の会場となる東京ビッグサイトの全景 世界13ヶ国から参加した自動車部品・用品・機械工具・テスター機器類のメーカー、商社など約300企業が出展、▶



▼また関連するセミナーなども併催もあって、地方から集まるインストラクター、機構関係役員にとっても有益な見学会場になるものと期待されている。

詳細は、実行委員会等で決定され次第、ELV機構ホームページ等に掲載される予定。▶

▼実行委員は次のとおり。(順不同・敬称略)

◇実行委員長 北口賢二(副代表理事) ◇実行副委員長 榎本拓(副代表理事)、垣花善則(企画総括担当・沖縄ブロック長) ◇実行委員 木内俊之(渉外担当・関東東ブロック長)、吉川日男(組織担当・中国ブロック長)、岡武幸(過会場担当・山梨県カーリサイクル協同組合理事長)、辻隆雄(促進担当・九州ブロック長) ◀

平成20年度の事業計画など決定 ELV機構第3回理事会を開催

ELV機構の第3回理事会が12月14日、機構本部会議室で開かれた。(写真)

同理事会は、平成19年度の残り第4四半期の事業及び平成20年度に向けた機構としての事業計画を決定するもの。

3月までの事業としては、①自動車再資源化協力機構から提示された「エアバッグ車上作動処理に関わる写真撮影調査」で、「業者の作業負担の検討」など条件付きで承認②「JAERA認定インストラクター全国大会」の開催について執行部提案どおり承認された。(詳細は一面参照)

平成20年度の事業については継続事業と新規事業が有り、継続事業としては、①JAERAホームページの運営充実を中心に広報活動の推進②自再協などの委託事業の引続き受託③3年目を迎える「自動車リサイクルの推進とリサイクル部品の普及」キャンペーンを10月に実施していくほか④賛助会員の募集、を行っていくこと。

新規事業としては①今夏、北海道洞爺湖で開催される主要国首脳会議(洞爺湖サミット)に合わせ、解体業界への理解と認知度を向上させる目的で「ELV環境サミットin北海道」を札幌市で開催すること(三面参照)②解体業界への「資格制度」の導入③「表彰制度」の制定、を決定した。

また新法人団体として設立5年目を向かえるところから、組織の見直し等も行い、運営効率を上げることも決めた。同理事会には、経済産業省から水口良孝自動車課課長補佐、環境省から中野哲哉自動車リサイクル対策室室長補佐が来賓として出席した。◀



リサイクル推進キャンペーン、20年も継続

ELV機構部品流通部会(部会長・清水信夫理事)は、11月に開催した部品流通研究会での議論を踏まえ、平成20年度も10月の3R推進月間に合わせ、19年度に引続き「自動車リサイクルの推進とリサイクル部品の普及」についてのキャンペーン活動を行うことを決めた。

「自動車リサイクルの推進とリサイクル部品の普及」活動については、平成18年、経済産業省のリサイクル促進政策の一環として製作された「チラシ」を全国会員団体に配付したのがきっかけ。この活動は年を追って拡大し、平成19年度は北海道から九州まで会員団体ベースで地元のイベントと結びつけた運動に定着してきた。

「解体届け」遅延の原因は「手続き書類の不ぞろい」

ELV機構地域支援部会(部会長・青木勝幸理事)は、定期的に開催しているELV流通調査委員会を通じ、「解体届けの実態」についてアンケート調査を行ってきたが、先頃纏めた中間報告で、「解体届け」がスムーズに進まない理由として、「中古車業者・整備事業者など他の引取り業者から引取った使用済み車の手続きに必要な書類が揃わない」ことが大きな理由として挙げられることが判明した。流通調査委員会では、さらにアンケート結果を精査、「解体届け」手続き書類の早期回収の仕組みについて検討していくことにしている。

福島の大手解体業者「触媒」1トン盗難

福島県南相馬市の大手解体業者(株)シマ商会で、使用済み車から取り外したマフラーの触媒約1トン(600万円相当)が盗まれていることが12月18日わかった。触媒にはプラチナなどの希少金属が含まれているところから、南相馬署は、金属を狙った窃盗事件と見て調べている。調べでは同日午前、触媒を保管していたコンテナが壊されているのに従業員が気づき、警察署に届け出た。触媒は粉末状で、500キロずつ二つの袋にはいっていたという。シマ商会では、今年4月以降、同様の盗難が2度あり、同社から近隣業者に「お知らせ」が届けられており、警察署で関連を調べている。

<日本経済新聞から転載> ◀

平成20年6月、北海道で開催 自動車リサイクル環境フォーラム ELV機構の総会も兼ねて

日本ELVリサイクル機構(酒井清行代表理事)は、12月14日開催の第3回理事会で、平成20年7月、北海道洞爺湖で開催される国際主要国首脳会議(洞爺湖環境サミット)を記念して、日本の自動車リサイクル産業としてのアピールを行うため「自動車リサイクル環境フォーラムin北海道」の6月開催を決定した。北海道ブロック地元での開催であるところから北海道自動車処理協同組合(南可昭理事長)が幹事団体として全面的に支援する。また例年、6月はELV機構の総会時期であるところから平成20年度定例総会も北海道で開催する。

G8洞爺湖サミットに狙い定め

国内の自動車解体業界は、平成17年の自動車リサイクル法施行以降、使用済み自動車の流通激変という大波に翻弄されながらも、国際的なモデルとしてのわが国の自動車リサイクル法を遵守する活動を通じて、新たな「環境産業」としての社会的評価も受けつつある。こうした中で、地球温暖化問題が国内外を問わず経済・社会問題となり、来年はドイツに引き続いて「地球温暖化対策」を主要テーマとしたG8の首脳会議が日本の北海道洞爺湖で開催されることに決まった。これを受けて、北海道ブロックの伊丹伊平ブロック長から緊急提案が上程され、理事会満場の賛成を受け、「環境フォーラムin北海道」の開催が決まった。

「リサイクル産業」への転換アピール

開催までに半年という短期間の中で成果を目指すところから、実行委員会による組織運営を行う。1月11日に第1回の実行委員会が開催され詳細が検討されるが、このフォーラムを通じて、①業態の「自動車解体業」から「自動車リサイクル産業」への転換のアピール②環境負荷の少ない処理、資源有効利用の促進③ASR(シュレッダーダスト)削減のためのリサイクル技術の高度化の推進④地球温暖化防止への貢献度の理解促進、を発信していきたい、としている。

札幌コンベンション会場に

事務局案段階では①会場は札幌市東札幌の札幌コンベンションセンターを想定②全体スケジュール▶

▼の初日は北自協とELV機構の各総会、記念講演会と懇親パーティーの開催、2日目はテーマ別分科会と一般来場者も受け入れたパネルディスカッション。3日目はオプションで北海道観光ツアーの計画。



環境フォーラム会場予定の札幌コンベンションセンター

「資格制度」などテーマ別会議も

会場となる札幌コンベンションセンターは、最大2500人収容の大ホールから、600人収容の中ホール他に中小の会議室が12室、国際会議などのための円形の特別会議場まであり、レストラン、大駐車場が併設。JR札幌駅から地下鉄で10数分、千歳空港からもバスで40分の便利な場所となっている。

現在想定されている分科会テーマは、「自動車リサイクル部品の展望」「使用済み車流通変化への対応」「全部再資源化の問題点」「資源リサイクルの課題」「自動車リサイクル産業の資格制度」などが考えられている。

ELV機構としては、G8首脳会議開催という、国内外の注目を集める国際イベントをいわば好機として捉え、しっかりと存在感をアピールしていきたい考えだ。◀

JAERA 07年 日誌で見る機構本部 1年の活動

日本ELV機構は平成16年の6月に新法人として設立、今平成19年12月で3年半を経過しました。この間、着実に活動を展開してきました。この1年を振り返り、平成19年の日誌から本部の活動の一端をご紹介します。次号では、地域の活動を纏めてご報告します。

活路開拓調査事業の結果報告会を全国で実施

- ◎1月11日 自動車再資源化協力機構との定期協議開催(ELV機構)
- ◎1月15日 ELV流通調査委員会開催(ELV機構)
- ◎1月24日 日本環境衛生センター「3Rと廃棄物適正処理会議」出席(虎ノ門ビル)
- ◎1月25日 電線総合技術センター「電線調査委員会」出席(ELV機構)
- ◎1月30日 部品流通部会開催(ELV機構)
- ◎2月5日 活路開拓事業関東ブロック説明報告会開催(お茶ノ水駿河台会館)



- ◎2月9日 ELV19年度事業打合せ会議開催(ELV機構)
- ◎2月14日 ELV流通調査委員会開催(ELV機構)
- ◎2月27日 第6回部品流通研究会開催(ELV機構)
- ◎3月5日 自再協との定期協議開催(ELV機構)
- ◎3月8日 ELV流通調査委員会開催(ELV機構)
- ◎3月16日 第〇回ELV定例理事会開催(ELV機構)
- ◎3月23日 部品流通研究会ワーキング会議開催(ELV機構)
- ◎4月6日 自動車リサイクル促進センターとの協議開催(ELV機構)
- ◎4月11日 平成19年度予算会議・自再協との定期協議開催(ELV機構)
- ◎5月8日 自再協と打合せ(自再協)
- ◎5月10日 ELV流通調査委員会開催(ELV機構)
- ◎5月11日 部品流通部会開催(ELV機構)
- ◎5月16日 総会準備会合(ELV機構)
- ◎6月12日 第〇回ELV定例理事会開催(品川プリンスホテル)
- ◎6月13日 平成19年度ELV社員総会及び会員大会及び懇親会開催(品川プリンスホテル)
- ◎6月14日 部品流通研究会事前会議開催(ELV機構)
- ◎6月19日 ELV流通調査委員会開催(ELV機構)
- ◎6月20日 部品流通部会開催(ELV機構)

活路開拓事業第2弾事業と取組み

- ◎6月22日 活路開拓事業第1回情報システム委員会(ELV機構)
- ◎6月27日 第7回部品流通研究会開催(ELV機構)
- ◎7月3日 ELV機構東京ブロック会議開催(ELV機構)
- ◎7月6日 部品流通部会開催(ELV機構)
- ◎7月10日 経済産業省自動車課、リサイクル室長交代名刺交換会出席(経済産業省)

自り法アンケートの要望項目検討開始

- ◎7月12日 第1回自り法要望取りまとめ委員会開催(ELV機構)
- ◎7月13日 第11回産構審合同会議出席(三田会議所)
- ◎7月18日 ELV流通調査委員会開催(ELV機構)
- ◎7月26日 橋自動車リサイクル室長ら千葉県内解体工場視察(京葉自工他3工場)
- ◎7月31日 活路開拓事業第2回委員会開催(ELV機構)
- ◎8月24日 部品流通部会開催(ELV機構)
- ◎8月29日 ELV流通調査委員会開催(ELV機構)
- ◎8月30日 活路開拓事業第3回委員会開催(ELV機構)



ブロック長の役割強化で初会合

- ◎8月31日 第1回ブロック長会議開催(ELV機構)
- ◎9月6日 第8回部品流通研究会開催(ELV機構)
- ◎9月13日 機構本部のチラシ配付活動事前許可申請(愛宕警察署)
- ◎9月27日 自工会記者クラブにて10月1日3Rキャンペーン資料配布
- ◎9月28日 活路開拓事業第4回委員会開催(ELV機構)

第2回目の全国「3R月間」に一斉チラシ配付活動

- ◎10月1日 JR新橋駅前機構役員がリサイクル部品普及チラシを配布
- ◎10月5日 第2回自り法要望取りまとめ委員会開催(ELV機構)
- ◎10月17日 ELV流通調査委員会開催(ELV機構)
- ◎10月26日 活路開拓事業第5回委員会開催(ELV機構)
- ◎11月4日 東京モーターショー記念シンポジウムに応援参加(幕張メッセ国際セミナー会場)



- ◎11月8日 ELV流通調査委員会開催(ELV機構)
- ◎11月9日 正副代表理事会議開催(ELV機構)
- ◎11月16日 第9回部品流通研究会開催(ELV機構)
- ◎11月27日 ELV流通調査委員会開催(ELV機構)
- ◎11月28日 第2回ブロック長会議開催(ELV機構)
- ◎12月14日 第3回理事会開催(ELV機構)

編集後記

◆12月暮れの日経商品紙面で、鉄スクラップ価格が年内最高値をつけたと報じられた。大阪ではトン四万円を越したという。こうなると、国内の市場から廃車が消えてしまうのではないかと考えられるが、逆にその高値を見越して、地方では違法な廃車のストックが現れつつあるという◆一時は「廃車」で埋まった谷が何時の間にかきれいになったとの報道もあったのに、である◆クルマを商売のネタとして発展してきた産業は多々あるが、今はそれら産業間の秩序も失せ、ひたすら金になるところへ流れていく◆自由経済は民主国家の証、と嘯くむぎが多い中で、何が真実で、その行く先はどうか差し示す人財はまだ居ないようだ。今年も「漂流の1年」が過ぎる。(編集子)

有限責任中間法人 日本ELVリサイクル機構

JAERA ニュースレター

発行日：2007年12月25日

発行所：〒105-0004東京都港区新橋3丁目2-2

—美ビル5F

TEL.03-3519-5181 / FAX.03-3597-5171